

平成21年8月10日

各位

上場会社名 ケネディクス株式会社
 代表者 代表取締役社長 川島 敦
 (コード番号 4321)
 問合せ先責任者 取締役経営企画担当 吉川 泰司
 (TEL 03-3519-2530)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年2月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年12月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	69,300	13,900	10,900	△1,200	△1,883.88
今回発表予想(B)	60,300	10,700	6,500	△8,800	△13,887.30
増減額(B-A)	△9,000	△3,200	△4,400	△7,600	
増減率(%)	△13.0	△23.0	△40.4	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年12月期第2四半期)	80,217	15,443	12,034	5,517	8,681.88

平成21年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	108,400	18,000	13,200	200	313.98
今回発表予想(B)	105,700	14,900	8,800	△8,000	△12,559.22
増減額(B-A)	△2,700	△3,100	△4,400	△8,200	
増減率(%)	△2.5	△17.2	△33.3	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年12月期)	137,431	16,267	5,316	△10,850	△17,062.66

平成21年12月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	11,400	10,000	8,600	1,000	1,569.90
今回発表予想(B)	9,200	7,400	6,700	△4,800	△7,540.05
増減額(B-A)	△2,200	△2,600	△1,900	△5,800	
増減率(%)	△19.3	△26.0	△22.1	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年12月期第2四半期)	13,320	11,307	12,066	7,965	12,523.75

平成21年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	14,900	11,900	9,600	2,000	3,139.80
今回発表予想(B)	12,500	9,000	7,400	△4,300	△6,750.58
増減額(B-A)	△2,400	△2,900	△2,200	△6,300	
増減率(%)	△16.1	△24.4	△22.9	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年12月期)	15,826	5,504	4,994	△12,569	△19,748.61

修正の理由

第2四半期業績予想修正の理由

(連結)

当社グループが属する不動産及び不動産金融業界においては、不安定化していた資金調達環境が足下では少しずつ落ち着きを取り戻しつつあるものの、当第2四半期累計期間における不動産投資市場の流動性は、昨年来の金融市場混乱の影響を受け低調に推移しました。そうした厳しい環境の中においても、当社グループでは、平成21年6月に当社開発物件である江東区東雲所在の大型オフィスビル「KDX豊洲グランスクエア」を売却するなど、自己勘定で保有する不動産について、一定の外部売却を実現してまいりました。また、アセットマネジメント受託資産残高も純増を維持しております。

しかしながら、一部の自己勘定保有物件の売却について、売却収入、売却利益が当初見込みを下回ったことなどにより、営業収益及び営業利益が当初計画を下回る結果となりました。また、株式会社コマーシャル・アールイー（JASDAQ・コード8866）を中心とする関連会社の業績が低迷したことに伴う持分法投資損失を計上した他、「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）の適用に伴い、期首たな卸資産について当初見込みを上回る約128億円を特別損失として計上したため、経常利益及び四半期純利益についても当初計画を下回る結果となりました。

以上より、当第2四半期連結累計期間の業績予想数値について、営業収益、営業利益、経常利益及び四半期純利益を修正することといたしました。

(個別)

連結業績予想の修正理由と同様、一部の自己勘定保有物件の売却について当初見込みを下回ったことにより、匿名組合分配損益が減少しました。また、匿名組合出資の投資対象である不動産についての評価損を匿名組合出資持分の評価減として特別損失で計上いたしました。

これらにより、当第2四半期累計期間の業績予想数値について、営業収益、営業利益、経常利益及び四半期純利益を修正することといたしました。

通期業績予想修正の理由

当社グループでは、本年2月に中期経営計画を策定いたしました。第3四半期以降においては、引き続き自己勘定保有物件の外部売却を実現していくと同時に、新たな私募ファンドの組成やアセットマネジメントの新規受託を計画しており、それらの施策により、中期経営計画の柱であるバランスシートのスリム化と受託資産残高の成長をあわせて促進してまいります。また、本年度期首において、販売目的のたな卸資産として計上していた保有不動産の一部を長期保有目的資産と位置づけ、資金調達の長期化とあわせて有形固定資産へ振替えを実施しました。当該有形固定資産を中心とした保有資産から生じる賃料収入は、アセットマネジメントフィーとあわせて安定的な収益基盤の確立に貢献しております。

こうした安定収益を基礎に、第3四半期以降は継続的な経常利益・四半期純利益の計上を見込んでおります。しかしながら、第1四半期に計上した特別損失等の影響が大きく、通期においても当初見込みを下回り、通期の連結及び個別の業績予想数値について、営業収益、営業利益、経常利益及び当期純利益を修正することといたしました。

(注)上記の業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上